

昭和48年度第2回核データ検索システムワーキンググループ議事録

日 時 昭和48年7月26日(木) 13時30分~17時30分

場 所 日本原子力研究所東海研究所V.d.G. 建屋29号室

出席者 五十嵐 信一(原研) 加藤 和明(高エネルギー研)
金森 善彦(三井造船) 川合 将義(NAIG)
河原崎 雄紀(原研) 中川 庸雄(原研)
中嶋 龍三(法大) 成田 孟(原研, オブザーバー)
西村 和明(原研) 八谷 雅典(三井造船)
更田 豊治郎(原研) 山本 正昭(日立, 松岡代理)

議 事

1. SPLINT テストランの検討

前回に一人一核種として担当を決めて行なった SPLINT のテストランの結果を見せ合い結果の検討をした。原研外の委員のための窓口を担当した五十嵐委員から、

「外部からのインプットデータは一度で通ったケースは一つもなかった。それはデータのミス、あるいは SPLINT 自体のプログラムミスによるものである。簡単なデータミスおよびプログラムのミスは修正して流した。」という話しがあった。いまだ、角度分布についてのプロッティングはできないが、cross sectional data のプロッティングに関しては今回のテストランの結果 SPLINT はほぼ完全になったと思われる。

テストランを行なっての各委員からの意見としては、ファイル番号(評価ずみデータについて)が資料不足でわかりづらかったとか、「END」の control カードでプロットに入つて欲しいとかの意見が出された。

また、SPLINTの準備として使用されるプログラム RESEND の output で²⁴²Pu の elastic scattering cross section が負になつた領域があった。これは RESEND 自体の問題として、この W.G. には無関係に核データ研で修正作業が行なわれるだろう。

2. SPLINT に関する今後の作業について

・プログラムについて

成田氏から次の様な話しがあった。

「テストランに使ったプログラムは SPLINT1 とし、その後改良を加え SPLINT 2 と識別しているプログラムが出来ている。」

主な改良点は

- a , Y 軸の最大値、最小値の指定ができる様になつた。
- b , 軸のタイトルが自動的に出る様になつた。
- c , ユニットを可変にした。
- d , グラフの両端で内挿を行ない、グラフの energy 領域全体にデータが出る様にした。
- e , 以上に伴って input format が修正された。

以上 5 点である。さらに角度分布のプロットができる SPLINT 3 は 2 ヶ月以内に完成されるだろう。」

・今後の作業について

今後の作業について検討した結果次の事が決った。以下決定事項を並べる。

- a , 1 人 1 ~ 2 核種を担当し、cross sectional なデータを全てプロットする。核種は少なくとも今まで担当した核種については完全なプロットをし、希望があれば、他の核種もプロットする。新たに行なう核種については向う 1 週間以内に中川委員に連絡する。

(注 この議事録作成の段階までに連絡のあった核種は次の通りである。)

更田 Ta, Eu,

山本 Na,

河原崎 V,

中嶋 103 Rh, I (特に 127 I),)

b, 対象とする反応は, total, capture, fission, inelastic cross section, elastic scattering cross section である。

c, energy 領域は全領域とする。

d, グラフの大きさは横軸が最大 40 cm とする。

e, 準備ができ次第 NESTOR の index を担当者に送る。

f, タイムスケジュール, 2ヶ月後に次回の会合を持ち, それまでを作業の期限とする。

3. COMFORD の件

COMFORD の input format を更田, 中川両委員がまとめた。その資料を配布した。なお, 全く同じ資料を, 核データ評価ワーキンググループの共鳴パラメータ収集グループにも配布してある。

4. 次回

9月下旬とする。

以上